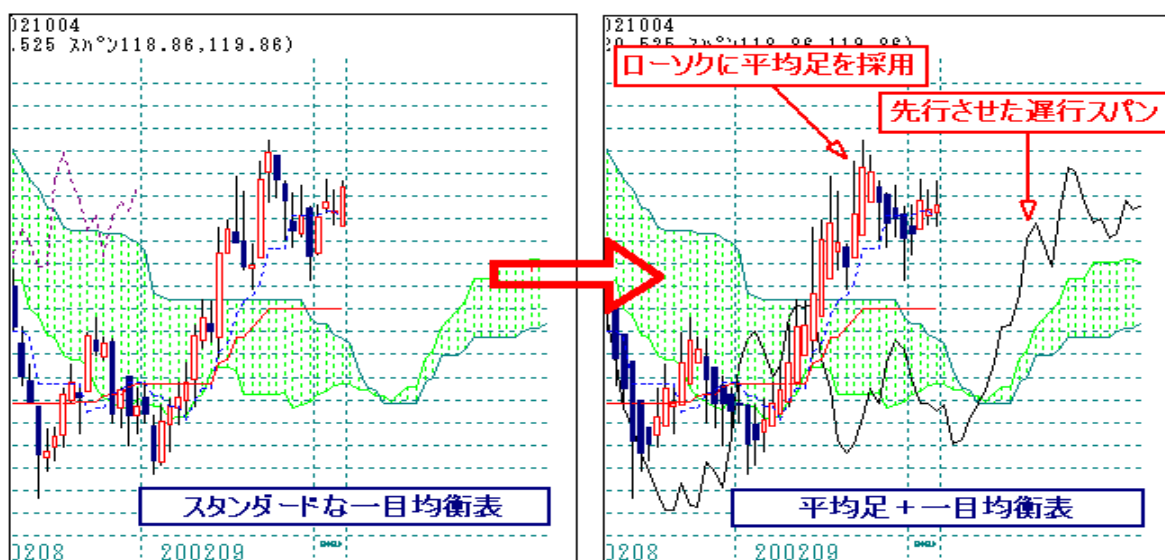


一目均衡表のバリエーション（前編）

一目均衡表はローソク足をベースに、計算によって得られる5つの線を重ねて表示することで、トレンド、サポートとレジスタンス、時間的要素をビジュアルに知ることが出来る分析手法です。このレポートでは、一目均衡表のバリエーションとしてローソク足部分に修正を加え、さらに遅行スパンを先行させることでよりビジュアルに、トレンドをわかりやすくする分析手法を紹介したいと思います。

ローソク足の修正には平均足という手法を用います。平均足とは簡単に言ってしまうとトレンドを見やすくした修正ローソク足です。オリジナルのローソク足は型を読むのに慣れを要しますが、ローソク足に計算による修正を加えることでトレンドを明確に表現できるようになります。また遅行スパンは通常当日の終値を当日を含めた26日前に記しますが、このバリエーションでは先行スパンと同様に当日の終値を当日を含めた26日後に記すこととします。

まず、2つのチャートをご覧ください。



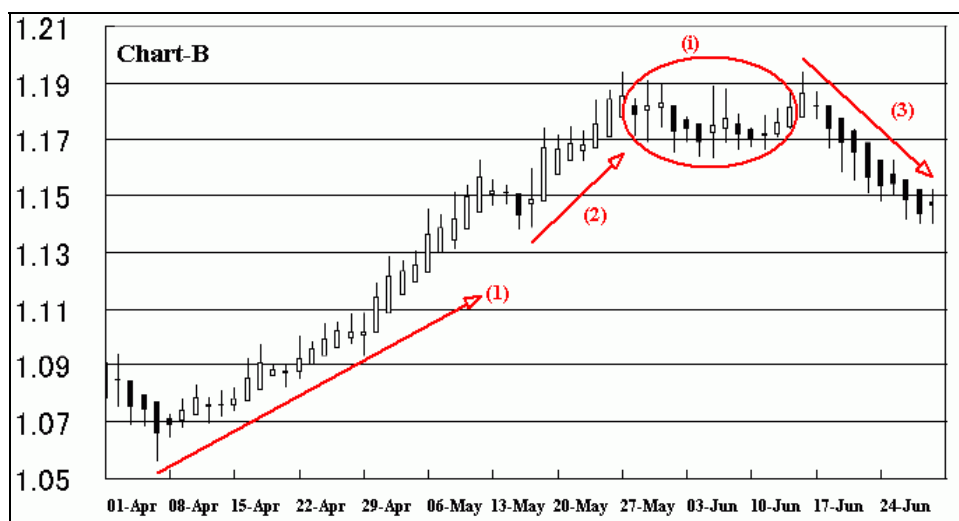
どちらのチャートも一目均衡表であることに代わりはありませんが、ローソク足と遅行スパンに手を加えたことでだいぶ雰囲気が変わっていることがおわかりかと思います。前編では、この平均足に注目して平均足の計算方法と見方について説明していきます。まず、ワークシートを使った平均足の計算方法を示しておきましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		O	H	L	C	MO	MC		
2	02-Jan-97	1.2684	1.2717	1.2628	1.2671	1.2675	1.2675		
3	:	:	:	:	:	:	:		
4	01-Apr-03	1.0919	1.0925	1.0864	1.0920	1.0781	1.0907		
5	02-Apr-03	1.0938	1.0943	1.0750	1.0769	1.0844	1.0850		
6	03-Apr-03	1.0765	1.0792	1.0685	1.0759	1.0847	1.0750		
7	04-Apr-03	1.0765	1.0769	1.0680	1.0735	1.0799	1.0737		
8	07-Apr-03	1.0675	1.0703	1.0559	1.0695	1.0768	1.0658		
9	08-Apr-03	1.0680	1.0724	1.0642	1.0708	1.0713	1.0689		
10	09-Apr-03	1.0722	1.0784	1.0675	1.0773	1.0701	1.0739		
11	10-Apr-03	1.0771	1.0830	1.0760	1.0789	1.0720	1.0788		
12	11-Apr-03	1.0786	1.0787	1.0692	1.0755	↑	↑		
13	14-Apr-03	1.0727	1.0811	1.0717	1.0772	↑	ModifiedClose=(O+H+L+C)/4		
14	15-Apr-03	1.0776	1.0821	1.0737	1.0797	↑	∴		
15	16-Apr-03	1.0793	1.0920	1.0784	1.0915	↑	G11=AVERAGE(B11:E11)		
16						↑			
17						ModifiedOpen=(prev.MO+prev.MC)/2			
18						∴			
19						F11=(F10+G10)/2			

平均足の場合、高値と安値はローソク足同様にその日の高値と安値を使います。ローソク足と異なるのは寄り付と終値です。修正終値はその日の4本値の平均値を使います。G11のセルの例のように単純に平均値を使っていますので簡単です。多少わかりにくいのが修正寄り付で、これはF11のセルの例のように前日の修正寄り付と修正終値の平均値を使います。修正寄り付きの場合の問題点は初日の計算(サンプルではF2のセル)です。初日のみ、前日がありませんから修正寄り付にも修正終値と同じ計算値を使うこととなります。

例として2003年春のユーロドルの動きを、通常のローソク足と平均足とで比較してみましょう。





ぱっと見て感じることは Chart-A にくらべて Chart-B はローソクの足型がシンプルになっているということではないでしょうか。いくつか例をあげてみます。最初の例は4月上旬から5月上旬にかけてのユーロの上げ相場です。それぞれのチャートで(1)の期間をくらべてください。Chart-A ではこの間、陽線陰線が複雑に繰り返されており、ローソク足のルールを知らないと細かな読みは不可能です。いっぽう、Chart-B ではほぼ一貫して陽線となっておりこの間のユーロが上げ相場であることをシンプルに示しています。特に4月下旬以降、平均足ではまったく陰線が出現しておらず、明確に上げ相場であることをビジュアルに知ることができます。

同様に、5月中旬から下旬にかけての上げ相場(2)の期間、6月中旬から下旬にかけての下げ相場(3)の期間を見くらべてみると通常のローソク足にくらべてトレンドが明確に現れていることがわかるでしょう。また、(i)の期間のように保ち合いを続けている間は、平均足の場合上下に影がある足型になることが多いため、トレンドがないことも容易に知ることができます。

以下に、平均足を読む場合のポイントを整理しておきますが、ルールはわずか5つですから、誰にでも短期間に覚えることが出来るはずです。

- (ルール 1) 陽線は”買い”、陰線は”売り”。 [基本ルール]
- (ルール 2) 陽線 + 上ヒゲ は”強い買い”、陰線 + 下ヒゲ は”強い売り”。
- (ルール 3) 陽線 + 下ヒゲ は”買いにかげり”、陰線 + 上ヒゲ は”売りにかげり”。
- (ルール 4) 前日の実体(ローソクの胴体部)より短い実体は”変化の兆し”。
- (ルール 5) 非常に短い実体(特に胴体部の無い同時線)は”トレンドの変化”。

シンプルなルールではありますが、初めは[基本ルール]だけでも十分に役立つはずです。

(後編に続く)